

観聚和泉だより

観聚学舎 拍江市直拍江第一小学校
3月号 令和4年2月28日発行
<http://www.komae.ed.jp/e/e/01/>

1年間ありがとうございました

校長 川崎 貴志

新型コロナウイルス感染症が全世界に広がってから、約2年が経ちました。本校の教育活動も、引き続き感染症対策を取りながら実施した1年間でした。

今年度は、コロナ対策と校舎増築・校庭改修工事を並行しながら、日々の教育活動を実施してきました。様々な制限や制約がありましたが、「子供たちの学びを止めず、今できることを精一杯取り組ませよう」との想いのもと、教職員は知恵を絞り、試行錯誤しながら教育活動を進めて参りました。保護者の皆様には、度重なる学校行事等の変更や中止等、ご迷惑をおかけすることも多々ありましたが、タブレットによるオンライン学習に際しては、ご理解とご協力をいただき、大変感謝しております。

さて、6年生はいよいよ卒業です。1年間、最高学年として学校をより良くし、楽しくするためにと委員会活動やクラブ活動、たてわり班活動等で創意工夫をした活動をしてくれました。特に、一小ダンスフェス2021での表現運動や鼓笛隊での雄姿は、後に続く5年生を始めとする下級生たちに勇気と希望、そして憧れを与えてくれました。今、下級生たちは、去り行く6年生のために感謝の気持ちを表す準備を始めています。晴れがましい気持ちで一小を卒業していけるよう、心温まる取り組みをしていきたいと思っています。

この1年間、ご家庭でも、時には寄り添い、励ましていただくこともあったかと思います。引き続き、学校と家庭、地域とが共に手を携えながら教育活動を進めていきたいと思っています。保護者、地域の皆様、1年間ありがとうございました。

3月の行事予定

※保護者の方は、学校ホームページの「保護者・児童」サイトの学校便りで御確認ください。

※その他の方は、学校までお問い合わせください。

3月の生活指導他

学校をきれいにしよう

今年度も残すところあと1か月となりました。慣れ親しんだ教室とももうすぐお別れです。「立つ鳥跡を濁さず。」次にその教室を使う人が気持ちよく過ごせるよう、1年間使った教室を丁寧に掃除し、片付けるよう指導します。

普段の生活においても自分の身の回りをきれいにすることを意識させています。

6年生 ありがとう！！

今年度、狛江第一小学校の中心になって活躍した6年生もあと1か月で卒業します。卒業式を前に、6年生に感謝の気持ちを伝える活動を全校で行っています。

2月28日からお昼の放送を使って各学級の代表が6年生への思いを伝えています。代表委員の4・5年生がインタビューアーとなってそれぞれの思いを届けています。

また、なかよし班活動で楽しい遊びをたくさん考えてくれた6年生に一人一人の児童が感謝の気持ちを込めてメッセージカードも書いています。5年生が中心となって取りまとめをしています。

日に日に6年生の卒業を祝う気持ちが学校全体で高まっています。素敵な門出になるように全校で取り組んでいきます。



＊新型コロナウィルス感染症対策により、全校児童が集まって行う6年生を送る会は中止となりました。ご了承ください。

外国語科・外国語活動

コミュニケーションの方法には、①何を話すのか（言語的）、②どう話すのか（非言語的）な要素の2つがあります。この2つのコミュニケーションのうち、②どう話すのか（非言語的）がより多くの影響を与えています。非言語的要素には視覚（外見、表情、視線、姿勢、動作、ジェスチャー、服装、身だしなみ）と聴覚（声の調子、強弱、大きさ）があります。言葉だけ知っていても使うことはできません。会話をするときには、「相手の目を見て、はっきり伝え、相手の言ったことに反応したり、ジェスチャーをしたりすること」を意識して学習に取り組んでいます。

自分で課題を解決すること＜校内研究部＞

今年度の校内研究のテーマは「はてなを楽しみ、主体的に追求する児童の育成」としました。コロナの流行あり、学校教育の在り方が再考される年となり、これからの社会で期待される力も明確化されました。子供たちが大人になって出ていく社会は、今以上に先の読めない世界になります。そこで必要とされるのは、自ら課題を捉え、自らの力で解決を図る力であり、教科で得た力を多用に活用していく力だと思います。国語の学びを国語だけで終わらせず、他教科でも活かす。本校では、将来必要になる個人の力を高めるために、研究を進めていきました。

各教科の力を発揮しやすい学習として「生活科」「総合的な学習の時間」があります。先生に言われた学習をするのではなく、自分たちの考えで学習に向き合い、課題を解決していく学習を各クラスで展開してきました。子供たちが中心に授業を展開していくため、失敗もありますが、紆余曲折しながら学びのゴールを自分たちで見つけていく子供たちの姿は、未来につながる力になると感じています。